No. 47　2025 年 10 月 19 日

三位一体後第十八主日礼拝

説 教 『 生 き て 働 く 信 仰 』

吉 丸 初 美 師

| | |
|---|---|
| 司 会 | 安 部 愛 さん |
| 奏 楽 | 白 石 百合子 さん |
| 招 詞 | マルコ福音書10章21節 |
| 主 の 祈 | ( 5 6 4 ) |
| 讃 詠 | 5 4 6 |
| 交 読 詩 篇 | 詩 1 編 |
| 祈 祷 | |
| 讃 美 歌 | 21 － 1 5 3 |
| 使 徒 信 条 | ( 5 6 6 ) |
| 聖 書 | ヤコブの手紙2章14～26節 |
| 説 教 | (口語訳362頁、新共同訳423頁) |

『 生 き て 働 く 信 仰 』

| | |
|---|---|
| 祈 祷 | |
| 讃 美 歌 | 21 － 5 5 2 (1･2･3 ) |
| 献 金 | |
| 感 謝 | |
| 報 告 | |
| 頌 栄 | 5 4 2 |
| 祝 祷 | |
| 後 奏 | |

**次週の礼拝** ( 三位一体後第十九主日礼拝 )

説 教 『だれも殺されないために 』

マタイ福音書5章21～26節

招詞　詩編　51篇12～14　、リタニー

讃美歌　５４６、21-３７１、21-４１３、５４３

礼 拝 当 番

今週　19 日 司会　安 部 愛 さん

次週　26 日 司会　市 川 真美恵 さん

会 堂 清 掃 奉 仕　11 月 2 日 (日)

コーヒータイムの後に行います。

## 本 日 の 集 会

★教 会 学 校　9 時 45分

★コーヒータイム　礼 拝 後 ～

それぞれの思いを語り合いましょう。

## 今週の集会/スケジュール

★聖書を読む会　10月21日(火)10時30分～12時

創世記を読んでいます。聖書を読むのが楽しくなる時間です。是非参加されてみて下さい。

❁めぐみ幼稚園ミニ運動会　10月22日(水)10時～

園庭で行います。子どもたちと保護者の方々保育者の健康を覚えてお祈り下さい。

§ 広島拘置所教誨奉仕　10月22日(水)13時30～16時

施設にある方の信仰生活を覚えてお祈り下さい。

❁めぐみ幼稚園礼拝　10月24日(金) 10時30分～

## 次週以降のスケジュール等

★広島西分区交換講壇　10月26日(日)10時30分

吉丸伝道師は広島流川教会へ、当教会へは向井希夫牧師がご奉仕されます。今から覚えて出席されるようご努力下さい。

†永 眠 者 記 念 礼 拝　11月2日(日) 10時30分～

今年から写真を並べ永眠者の方々を覚えて礼拝を行います。並べられる方は写真をフォトフレームに入れて当日ご持参下さい。追加で名簿に加える方がおられましたら、ご一報お願いいたします。

●レコードコンサート　10月26日(日)13時～15時30分

モーツァルト　交響曲第３９番 変ホ長調 Ｋｖ543

ハイドン　交響曲第８８番 ト長調 Hob Ｉ-88

ブラームス　交響曲第　3番　ヘ長調 作品 90

ご自由に参加されて下さい。お待ちしております。

§山根先生は本日神辺教会に説教ご奉仕に行かれています。先生の健康とお働きを覚えてお祈り下さい。

| 先 週 の 集 会 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 教 会 学 校 | 0 | 0 | 0 |
| 主 日 礼 拝 | 3 | 6 | 9 |

◇今週の説教要旨( 三位一体後第十八主日礼拝 )

『 生きて働く信仰 』ヤコブの手紙2章14～26節

宗教改革者ルターは本書を「藁の書」と批判しました。彼には「信仰によって義とされる」と強調した、パウロの言葉と矛盾して見えたのでしょう。また、ルターはローマカトリック教会の当時の「行い」に疑問を感じたので「行いの欠けた信仰」と言う表現に酷評したのだと思います。本書には、イエス様の名前が二回しか書かれていない事、キリストを語る部分が少ないという特徴があります。今日の聖書個所でヤコブが問いかけていることは二つ。一つは信仰と行いの関わり、もう一つは真の信仰とは、ということです。読者は離散したキリスト者で異邦人をも含み、当時の教会には貧富の差がありました。そこで、その状況を直視したヤコブは「それでは信仰は生きていない」と語ります。彼は、口先だけの信仰を問題にして、隣人に対して信仰の応答がなければ、その信仰は「死んでいる」と言いました。この言葉はパウロの言葉と響きます。彼は「山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ無に等しい」と語りました。ヤコブが言う「行い」は、正にこの愛を持って隣人に仕えることです。それは律法主義的な「善行を積む」ことではなく、そこには愛に根差した信仰の応答があるのか、という問いでした。つまり、パウロは「信仰による義」をヤコブは「義を示す信仰の実」を強調したのです。そして信仰は、正しいことをしようと頑張るだけでは「生きた信仰」とは言えません。それは信仰を持っているから、自然に生まれる応答です。日々与えられている神の恵みに応答し、キリストに結ばれている行為こそが、ヤコブが言う「生きて働く信仰」なのです。その信仰の源は、私たちが隣人を愛する根拠となる、この唯一の主に対する、信仰告白にあります。神を心を尽くして愛することが、隣人を愛することに繋がり信仰を生きたものに変えるのではないでしょうか。そして、それを犯したとき律法全体を犯していると言っても過言ではありません。アブラハムとラハブの信仰は、行いと同時に、そこには徹底した神への服従があったことを忘れてはいけません。服従することは恵みへの応答です。